

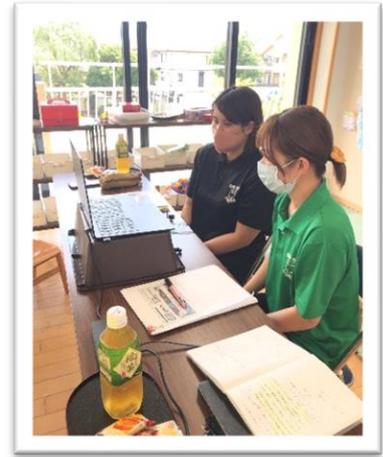
こんな時期こそ経験を生きたものにするポジティブマインドを

7月～8月、現在進行形ではありますが今までにないほどの新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。7月前半頃から小学校や周りの園でかなりの感染者が出ているようではありましたが、運動会や（泊まることは断念しましたが）年長児のお泊まり保育の代替行事など、予定していた大きな行事を無事に終えられたことを今さらながら有難く感じています。一部、延期にしているものもありますので、タイミングを見ながら実施時期を検討していきたいと思います。（できるだけ実施ができるよう検討しますが、状況によってはやむなく中止とする可能性もありますので、ご了承ください。）

この新型コロナウイルスの影響で我が家の長女も夏休みに予定していた大会やコンクールへ急遽出場ができない状況になりました。他の先生たちからも同じような状況になって悔しい思いをした、我が子と一緒に涙したという話をたくさん耳にしました。スポーツや習い事など自分がやっていること、好きなことは、努力や熱意さえあれば、練習量に比例して上達も進んでいくかと思えます。ただ、どんなに努力したとしても、その努力の成果を示す場である大会やコンクールに、自分の努力とは関係なしに出場できないという悲しい状況。子どもにとってもまたその努力を見守っていた親からしても、どうにもやるせない気持ちが残ります。

もちろん、今までも急に病気になって出場できないといったことは起こり得ることでありました。しかしながら、ここまで同じような事態があちこちで起きているのを目の当たりにすると、「努力は報われない」、「どうせ何が起きかわからないからあまり努力しすぎても無駄だ」というような【諦め】だけが子どもたちの記憶や経験とならないようにと、願うばかりです。

せんだい幼稚園では運動会やリレーなどの運動行事を行っていますが、本番とか練習といった言葉は意識的に使わないようにしています。本番かどうかなんて大人がただそう決めているだけであって、いわゆる本番の結果だけを気にすることに大して意味はないと思っているからです。練習とか本番という言葉を使わないので、他の園にとっては「明日の運動会の練習」と呼ぶところがせんだい幼稚園では毎日が「運動会（いわば本番）」です。この前の運動会では一番が取れなかったけど、次の運動会ではがんばろう。悔しい思いをすることも大事ですが、悔しい中から次はこうしよう、もっと良くなるように頑張ろうと、次なるエネルギーが生まれていって、乗り越えようとするの方がもっと大事なことです。さまざまな経験を糧にするのか、悲しい経験にするのかは周囲の大人たちの意味付けによっても大きく変わります。無駄な経験などありません。こんな時代だからこそ経験を生きたものに変えるポジティブさ・逞しさが必要なのかもしれません。



7/25 教職員研修大会のための午前保育にご協力頂きありがとうございました。
(オンライン開催)



業者の方のご厚意で築山を盛って頂きました。ピカピカの泥団子作りにチャレンジしてもらいたいです！



園の南側の駐車場付近に夜間のためのライトを設置しました。